

# OPTIMIZE

**MERCURY PERFORMANCE CENTER™**

VERSION 8.1

アップグレード・ガイド

**MERCURY™**

BUSINESS TECHNOLOGY OPTIMIZATION

# Mercury Performance Center <sup>TM</sup>

アップグレード・ガイド

Version 8.1

## Mercury Performance Center アップグレード・ガイド, Version 8.1

本マニュアル、付属するソフトウェアおよびその他の文書の著作権は、米国著作権法、および各国の著作権法によって保護されており、付属する使用許諾契約書に基づきその範囲内でのみ使用されるものとします。Mercury Interactive Corporation のソフトウェア、その他の製品およびサービスの機能は次の 1 つまたはそれ以上の特許に記述があります。米国特許番号 5,511,185; 5,657,438; 5,701,139; 5,870,559; 5,958,008; 5,974,572; 6,137,782; 6,138,157; 6,144,962; 6,205,122; 6,237,006; 6,341,310; 6,360,332; 6,449,739; 6,470,383; 6,477,483; 6,549,944; 6,560,564; 6,564,342; 6,587,969; 6,631,408; 6,631,411; 6,633,912; 6,694,288; 6,738,813; 6,738,933; 6,754,701; 6,792,460 および 6,810,494。オーストラリア特許番号 763468 および 762554。その他の特許は米国およびその他の国で申請中です。権利はすべて弊社に帰属します。

Mercury, Mercury Interactive, Mercury のロゴ, Mercury Interactive のロゴ, LoadRunner, WinRunner, SiteScope および TestDirector は、Mercury Interactive Corporation の商標であり、特定の司法管轄内において登録されている場合があります。上記の一覧に含まれていない商標についても、Mercury が当該商標の知的所有権を放棄するものではありません。

その他の企業名、ブランド名、製品名の商標および登録商標は、各所有者に帰属します。Mercury は、どの商標がどの企業または組織の所有に属するかを明記する責任を負いません。

Mercury Interactive Corporation  
379 North Whisman Road  
Mountain View, CA 94043  
Tel: (650) 603-5200  
Toll Free: (800) TEST-911  
Customer Support: (877) TEST-HLP  
Fax: (650) 603-5300

© 2002 - 2005 Mercury Interactive Corporation, All rights reserved

本書に関するご意見、ご要望は [documentation@mercury.com](mailto:documentation@mercury.com) まで電子メールにてお送りください。

# 目次

データベースの移行について .....	2
データベースの移行の概要 .....	3
ホスト・データのバックアップ .....	6
バックアップ・データベースの作成 .....	6
データベースのアップグレード .....	8
データベースの移行 .....	11
Performance Center システムの再設定 .....	13
トラブルシューティング .....	16



---

# データベースの移行

本ガイドでは、データベース・サーバに旧バージョンの Performance Center がインストールされている場合に、データベースをアップグレードして移行するために必要な手順について説明します。

ここでは、次の項目について説明します。

- ▶ データベースの移行について
- ▶ データベースの移行の概要
- ▶ ホスト・データのバックアップ
- ▶ バックアップ・データベースの作成
- ▶ データベースのアップグレード
- ▶ データベースの移行
- ▶ Performance Center システムの再設定
- ▶ トラブルシューティング

## データベースの移行について

データベース・サーバに旧バージョンの Performance Center がインストールされている場合は、Mercury Performance Center 8.1 Additional Components CD に含まれているデータベース移行ツールを使って、データベースを移行できます。

Mercury Performance Center は、次のバージョンの Performance Center からのデータのアップグレードをサポートしています。

- ▶ LoadRunner TestCenter 2.0
- ▶ LoadRunner Metro 7.5.1
- ▶ LoadRunner TestCenter 7.8 (SP1, FP1, SP2, SP3)
- ▶ Performance Center 7.8 (SP4, FP2)

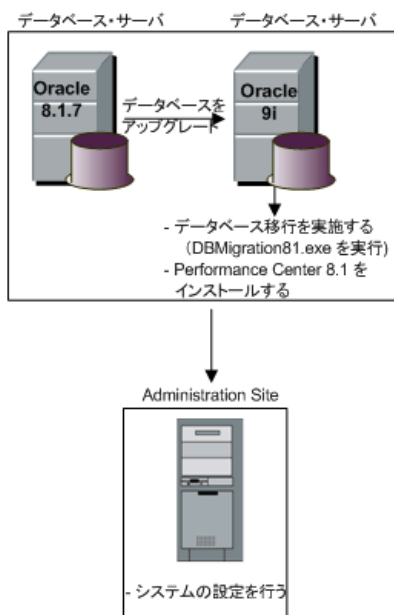
---

**注：**Performance Center は、Windows または UNIX プラットフォーム上の Oracle 9.i と、Windows プラットフォーム上の SQL Server 2000 をサポートしています。Oracle 8.i または MS-SQL 7（これらは Performance Center でサポートされなくなりました）を使用している旧バージョンの Performance Center をアップグレードする場合は、データベースの移行を行う前にデータベースをアップグレードする必要があります。

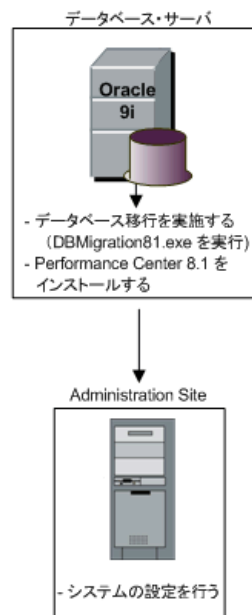
---

次の図は、アップグレードと移行のプロセスを示します。

#### データベースをアップグレードし、データベース移行を実施する



#### データベース移行を実施する



## データベースの移行の概要

Mercury Performance Center 8.1 用にデータベースを移行およびアップグレードするには、次の手順を実行します。

### 1 ホスト・データをバックアップします。

この手順は、ホスト・マシンのオペレーティング・システムを Windows NT からアップグレードする場合にのみ必要です。Performance Center 8.1 は Windows NT をサポートしていません。詳細については、6 ページ「ホスト・データのバックアップ」を参照してください。

### 2 ファイル・サーバをバックアップします。

ファイル・サーバ上のユーザ・データ・フォルダ (1, 2, 3 などの番号付きのフォルダ) をバックアップします。



### 3 データベースをバックアップします。

データベースのバックアップは必須です。詳細については、6 ページ「バックアップ・データベースの作成」を参照してください。

### 4 ライセンス・キーをバックアップします。

移行後のシステムでも同じライセンス・キーを使用するために、Performance Center のライセンス・キーとホストのライセンス・キーの両方を保存します。この情報は、手順 12 で Performance Center システムを再設定するときに必要なになります。

### 5 旧バージョンの Performance Center をアンインストールします。

すべてのマシンで、旧バージョンの Performance Center, LoadRunner TestCenter, および LoadRunner をアンインストールします。

Mercury Performance Center 8.1 は Windows NT をサポートしていません。Windows NT をアンインストールし、サポートされている環境にアップグレードします。

---

**注：**旧バージョンが LoadRunner TestCenter 2.0 で、自動起動パッチがインストールされている場合は、システムをアンインストールする前にスケジューラを無効にする必要があります。スケジューラを無効にするには、コマンド・プロンプト・ウィンドウを開き、インストール・パスの bin ディレクトリで **OrchidScheduler.exe -u** と入力します。

---

### 6 残ったものを削除します。

User Site サーバおよび Administration Site サーバ上の仮想ディレクトリを削除します。

crypto ディレクトリから **IUSR\_METRO** キーを削除します。**C:¥Documents and Settings¥All Users¥Application Data¥Microsoft¥Crypto¥RSA¥MachineKeys** から、**f9416f003254e6f10da1fbad8e4c383** で始まるファイルを削除します。

---

**注：**照合が終了していない結果を照合できるようにしておくために、旧バージョンの **orchidtmp** フォルダは削除しないでください。

---

## 7 Performance Center 8.1 をインストールします。

Performance Center 環境内のすべてのサーバ・マシンとホスト・マシンに Mercury Performance Center 8.1 をインストールします。

## 8 データベースをアップグレードします。

この手順は、Oracle 8.i または MS-SQL 7 データベースを使用している場合にのみ必要です。Performance Center がサポートするのは、Windows または UNIX プラットフォーム上の Oracle 9.i と、Windows プラットフォーム上の SQL Server 2000 だけです。詳細については、8 ページ「データベースのアップグレード」を参照してください。

## 9 データベースを移行します。

Mercury Performance Center データベース移行ツールを実行して、データベースを移行します。詳細については、11 ページ「データベースの移行」を参照してください。

## 10 ファイルを移行します。

ホスト・データをバックアップしてある場合は、**orchidtmp** フォルダと **temp** フォルダを復元します。**orchidtmp** フォルダは、旧バージョンのディレクトリと新しいディレクトリ（たとえば、C:\Program Files\Mercury Interactive\Performance Center\orchidtmp）の両方にコピーする必要があります。仮想ユーザ **temp** フォルダは、元の場所に復元してください。

ファイル・サーバをバックアップしてある場合は、それらの User データ・フォルダを Performance Center File Server ディレクトリに追加します。

## 11 ブラウザ・クライアントをクリーンアップします。

UI の問題を防ぐために、ブラウザからクッキーと一時インターネット・ファイルを削除します（[ツール] > [インターネットオプション] > [全般] タブ）。

## 12 Performance Center システムを再設定します。

Mercury Performance Center 8.1 を起動し、必要なシステム設定情報とライセンス情報を入力します。詳細については、13 ページ「Performance Center システムの再設定」を参照してください。

## ホスト・データのバックアップ

ホスト・マシンのオペレーティング・システムを Windows NT から Windows 2000 SP4 Server/Advanced Server, Windows 2003 SE/EE, または Windows XP SP1 以上にアップグレードする場合は、ホスト・データのバックアップをとる必要があります。

まだ照合や分析が終了していないテスト実行からのデータが失われるのを防ぐために、次のいずれかを実行する必要があります。

- ▶ 各ホスト・マシンの **orchidtmp** フォルダと **Temp** フォルダのバックアップをとる。
- ▶ User Site 上での負荷テスト実行の結果を照合および分析する。

## バックアップ・データベースの作成

データベースの移行に先立ち、データを保護するためにデータベースのバックアップを作成する必要があります。そうすれば、移行エラーやハードウェアの故障が発生しても、バックアップしたデータベースを復元してデータを回復できます。詳細については、16 ページ「バックアップ・データベースの復元」を参照してください。

---

**注：**データベースのバックアップはファイル・システムのバックアップと同期させてください。

---

データベースのバックアップを実行する前に、次のことを行います。

- ▶ 次の状態のテストがないことを確認します：「**Ready**」, 「**Collating Results**」, 「**Running**」, 「**Stopping**」, 「**Creating Analysis Data**」, 「**Deleting Temporary Results**」

次のクエリを使用すれば、このような実行をより簡単に追跡できます。  
`SELECT * FROM SessionRuns WHERE State in (1,2,3,7,8,13)`

上記の状態のテストがある場合は、現在実行中の操作が完了するのを待ってから、移行を実行してください。

- ▶ 次のクエリを実行して、すべてのアクティブなポインタとリソース割り当てをリセットします。UPDATE Resources SET AllocationCount=0
- ▶ Administration Site で設定されているすべてのホスト・マシンが実際に存在することを確認します。ホストが存在しないか電源が入っていない場合や、ホストがネットワークに接続されていない場合は、後で設定の問題が発生するのを防ぐために、そのホストを Administration Site において削除する必要があります。

**MS-SQL データベースのバックアップを行うには、次の手順を実行します。**

- 1 [Microsoft SQL Server] > [Enterprise Manager] を起動します。
- 2 MI\_LRDB データベースが格納されている SQL Server を選択します。
- 3 [データベース] タブをクリックし、データベースとして MI\_LRDB を選択します。
- 4 MI\_LRDB を右クリックし、[すべてのタスク] > [データベースのバックアップ...] を選択します。

**Oracle データベースのバックアップを行うには、次の手順を実行します。**

Oracle クライアントがインストールされているコンピュータにおいてコマンド・プロンプト・ウィンドウを開き、次のように入力します。

```
exp system/manager@ <サーバ名> owner=MI_LRDB file= <ファイル名>
```

<サーバ名>の例 : amstel.mercury.co.il

<ファイル名>の例 : D:\backups\MI\_LRDB.dmp

## データベースのアップグレード

サポートされていない古いバージョンのデータベースを使用している場合は、新しいバージョンにアップグレードする必要があります。Performance Center は、Windows または UNIX プラットフォーム上の Oracle 9.i と、Windows プラットフォーム上の SQL Server 2000 のみをサポートします。データベースをサポートされているバージョンにアップグレードする場合は、データベースの移行を実施する前に、データベースをアップグレードする必要があります。

### Oracle データベースのアップグレード

次の手順は、古いバージョンの Oracle データベースを新しいバージョンにアップグレードする方法の概要を示しています。

#### 1 ユーザ MI\_LRDB を削除します。

移行先のデータベースにすでに **MI\_LRDB** ユーザが設定されている場合は、まずそのユーザを削除してからユーザを作成しなおす必要があります。

SQL\*Plus を使用して新しいデータベースに接続し、次のコマンドを実行します。

```
DROP USER MI_LRDB CASCADE;
```

#### 2 新しいユーザを作成します。

新しいデータベースで、新しいユーザ **MI\_LRDB** を、パスワード **MIOrchid#1** を指定して作成します。

SQL\*Plus を使用して新しいデータベースに接続し、次のコマンドを実行します。

```
CREATE USER MI_LRDB IDENTIFIED BY MIOrchid#1
```

#### 3 MI\_LRDB ユーザに DBA 権限を付与します。

SQL\*Plus を使用して新しいデータベースに接続し、次のコマンドを実行します。

```
GRANT DBA TO MI_LRDB
```

#### 4 古い Performance Center データベースをエクスポートします。

コマンド行から、次のコマンドを実行します。

```
% exp MI_LRDB/MIOrchid#1@ <古い TNS > file= <ダンプ・ファイルの名前> .dmp
```

---

注：<古い TNS >は、**tnsnames.ora** ファイルに指定されている、データのエクスポート元となる古い Oracle サーバを識別する名前です。

---

#### 5 .dmp ファイルを新しい Oracle データベースにインポートします。

コマンド行から、次のコマンドを実行します。

```
% imp MI_LRDB/MIOrchid#1@ <新しい TNS > file= <ダンプ・ファイルの名前> .dmp full=y
```

---

注：<新しい TNS >は、**tnsnames.ora** ファイルに指定されている、データのエクスポート先となる新しい Oracle サーバを識別する名前です。

---

#### 6 新しいデータベースの TNS エントリを作成します。

すべての Performance Center サーバおよびコントローラ・ホスト・マシンにおいて、新しいデータベースの TNS エントリを **tnsnames.ora** ファイルにコピーまたは作成します。各 Performance Center サーバおよびコントローラ・ホストからの接続を、次のように SQLPLUS を使って確認します。

```
% SQLPLUS MI_LRDB/MIOrchid#1@ <新しい TNS >
```

7 すべてのサーバおよびホストに正しい Oracle クライアントがインストールされていることを確認します。

8 PATH 環境に ORACLE/BIN ディレクトリを追加します (オプション)。

ORACLE/BIN ディレクトリを PATH 環境に追加し、

**< Performance Center のホーム・ディレクトリ > /DBSetup** ディレクトリから SQLPLUS を削除します。これにより、Performance Center がシステムにインストールされているバージョンの SQLPLUS を使用するようになります。

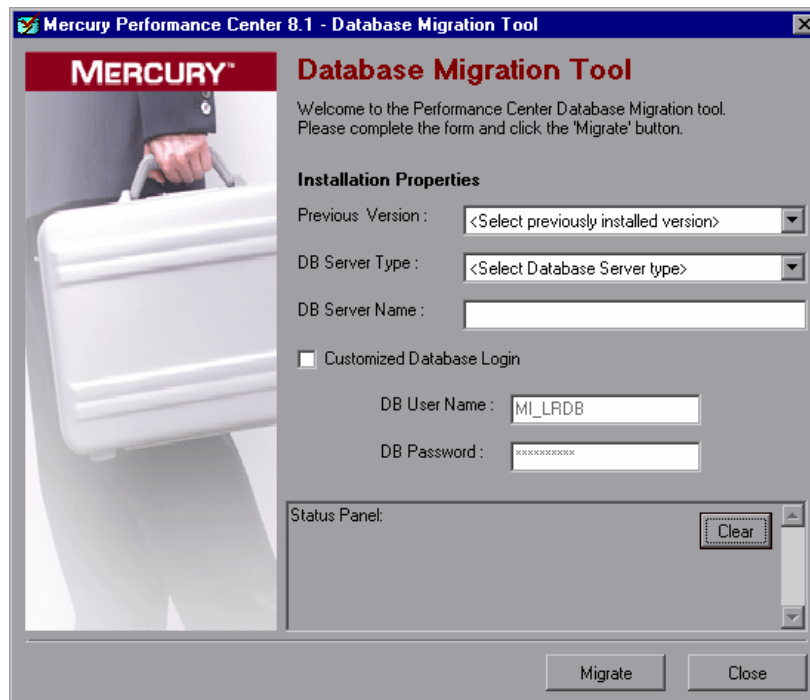
DBSetup ディレクトリ内の標準設定の SQLPLUS のバージョンは、Oracle 8.1.7 クライアント用です。

## データベースの移行

Performance Center 8.1 データベース移行ツールを使ってデータベースの移行を実施し、データベースを Mercury Performance Center 8.1 互換にアップグレードします。

データベースを移行するには、次の手順を実行します。

- 1 Mercury Performance Center 8.1 Additional Components CD から、Migration tool フォルダとそのすべての内容を、データベースに接続可能なマシンにコピーします。このマシンには、SQL クライアントまたは Oracle クライアントがインストールされている必要があります。
- 2 **DBMigration81.exe** ファイルをダブルクリックします。Performance Center 8.1 Database Migration Tool が開きます。





- 3 データベースについて次の詳細を指定します。

[**Previous Version**] : TestCenter 2.0, LR Metro 7.51, TestCenter 7.8 (SP1, FP1, SP2, SP3), または Performance Center 7.8 (SP4, FP2)。

[**DB Server Type**] : SQL Server または Oracle。

[**DB Server Name**] : 旧バージョンのデータベースが存在するデータベース・サーバの名前。

[**Customized Database Login**] : 標準設定と異なるユーザ名およびパスワードが使用されていた場合は、このチェック・ボックスを選択し、次のログイン情報を入力します。

▶ [**DB User Name**] : Performance Center データベース・ユーザ名。

▶ [**DB Password**] : Performance Center データベース・パスワード。

---

**注** : Oracle データベースの場合は、標準設定の Performance Center データベース・ユーザ名 (**MI\_LRDB**) を使用する必要があります、変更できるのはデータベース・パスワードだけです。

---

[**Clear**] : ステータス・パネルに表示されている情報をクリアします。

- 4 [**Migrate**] をクリックして、データベースの移行を開始します。移行が完了すると、データベースの移行が正常に行われたかどうかを知らせるメッセージが表示されます。

データベース移行の完了後、Performance Center システムを再設定する必要があります。詳細については、次の「Performance Center システムの再設定」を参照してください。

---

**注** : Oracle データベースの移行で問題が発生した場合は、Oracle クライアントをアンインストールし、レジストリ内の **HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\ORACLE** からすべての ORACLE エントリを削除して、クライアントを再インストールする必要があります。

---

## Performance Center システムの再設定

データベースの移行を実施した後、Administration Site においてシステムを再設定する必要があります（たとえそれが同じマシンで、すべての設定が同じであっても）。

バージョン 7.8 SP3 またはそれ以前のバージョンからデータベースをアップグレードして移行した場合は、データベースからサーバ名とライセンスが削除されています。Performance Center システムの設定に加えて、Performance Center のライセンスも設定する必要があります。

初期システム設定情報を入力するには、次の手順を実行します。

- 1 Web ブラウザで、Administration Site サーバをインストールした場所（たとえば [http:// <テスト・マシン> /admin/initialfs.htm](http://<テスト・マシン>/admin/initialfs.htm)）に移動します。[System Configuration] ページが表示されます。

Welcome to Performance Center 8.1

Before you begin using Performance Center, you'll need to supply a few details to set your system configuration.

### System Configuration

<b>Database:</b>	<b>File Server:</b>
DB host <input type="text"/>	Name <input type="text"/>
DB type <input type="text" value="SQLServer"/>	
User <input type="text"/>	
Password <input type="text"/>	
	<input type="button" value="Save"/>

- 2 次の情報を入力して [Save] をクリックします。

[DB Host] : <新しい TNS >名（tnsnames.ora ファイルで定義されている名前）

[DB type] : サーバにインストールされているデータベースの種類（SQLServer または Oracle）。

[DB Instance] : Oracle インスタンスの名前。このフィールドは、[DB type] として Oracle を選択した場合にのみ表示されます。

[User] : データベースに接続するためのユーザ名。

[**Password**] : データベースへの接続に必要なパスワードを入力します。

[**File Server**] : ファイル・サーバがインストールされているマシンの名前を入力します。

- 3 設定が正常に行われたら、[**Log to Site**] ボタンをクリックします。

Performance Center の Administration Site (<http://<テスト・マシン>/admin>) にログインします。[**Server Configuration**] ページが表示されます。

### Server Configuration

\* Database:

\* File Server:

\* Utility Server:

User site Servers

\* Name:

Name:

Name:

Name:

SiteScope Configuration

SiteScope Server:

SiteScope Port:

Use HTTPS:

Use Account:

Account:

データベース名とファイル・サーバ名は初期設定ですでに入力済みなので、読み取り専用で表示されます。

- 4 ユーティリティ・サーバ、User Site サーバ、および SiteScope サーバ (SiteScope を使ってサーバを監視する場合) について設定の詳細を入力し、[**Save**] をクリックします。Performance Center 7.8 SP4 またはそれ以降のバージョンからアップグレードした場合は、ライセンス・キーを再設定する必要はありません。ライセンスは、サーバの設定時に自動的にアップデートされます。

**Performance Center** およびホストのライセンスを設定するには、次の手順を実行します。

- 1 **[System Configuration]** メニューで、**[License]** をクリックします。  
**[License]** ページが開きます。

Performance Center License	
User Limit:	1000
Concurrent Runs Limit:	10
Valid:	Unlimited
License Key:	AEAOARHL-YMIJUMJAHJ-AEAOA

Host License	
License Key	AEAOARBM-YSKEKJJJJSXIOIEAZKEKEKEA-AEAOA

- 2 **[Performance Center License]** セクションで、**[Set New License]** をクリックします。**[Set New License]** ダイアログ・ボックスが開きます。

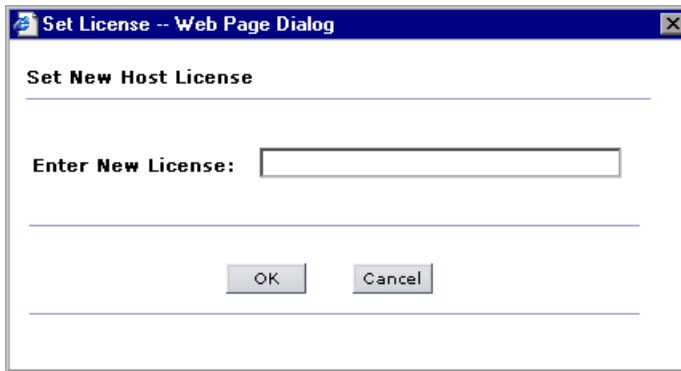
Set License -- Web Page Dialog

Set New Performance Center License

Enter New License:

Performance Center のライセンス・キーを入力し、**[OK]** をクリックしてライセンス情報を保存します。

- 3 [Machine License] セクションで、[Set New License] をクリックします。  
[Set License] ダイアログ・ボックスが開きます。



新しいホスト・マシン・ライセンス・キーを入力し、[OK] をクリックして新しいライセンス・キーを設定します。

---

注：新しいライセンス・キーを入力できない場合は、Mercury のカスタマー・サポートまでお問い合わせください。

---

## トラブルシューティング

- ▶ バックアップ・データベースの復元
- ▶ ログインの失敗
- ▶ データベースの作成の失敗

### バックアップ・データベースの復元

移行プロセス中にエラーが起きた場合は、データベース・バックアップ・ファイルを復元できます。

バックアップ・データベース・ファイルを復元するには、次の手順を実行します。

- 1 移行ログ・ファイル **C:\¥Documents and Settings¥<ログイン・ユーザ>¥Local Settings¥Temp¥DBMigration.log** でエラーを確認します。

- 2 バックアップからデータベースを復元します。

### MS SQL の場合

- ▶ [Microsoft SQL Server] > [Enterprise Manager] を開き、[データベース] を選択します。
- ▶ MI\_LRDB が存在する場合はそれを右クリックし、[削除] を選択します。
- ▶ 新規のデータベースを作成して MI\_LRDB と名付けます。
- ▶ 新しいデータベースを右クリックし、[すべてのタスク] > [データのインポート...] を選択します。
- ▶ ウィザードの指示に従って、バックアップしたデータベース (MI\_LRDB\_ <バージョン>) をソース・データベースとして指定します。

### Oracle の場合

- ▶ ユーザ MI\_LRDB を削除します。
- ▶ 新規の空のユーザを作成して MI\_LRDB と名付けます。
- ▶ この新しいユーザに TC\_Backup.dmp をインポートします。

- 3 11 ページ「データベースの移行」で説明している手順 2～4 を繰り返します。

### ログインの失敗

データベース・サーバへのログインが失敗すると、Performance Center は次のメッセージを表示します。「Operation terminated. Error description: Login to the Database Server failed. Check if user name and password are correct.」(操作を終了します。エラーの説明: データベース・サーバへのログインに失敗しました。ユーザ名とパスワードが正しいか確認してください)

次のことを確認してください。

- 1 ログインの詳細を確認します。

データベースのホスト名、タイプ、ユーザ名、およびパスワードが正しいかどうか確認します。データベース管理者に手助けを求めてください。

- 2 データベースの接続を確認します。

コマンド行から実行する SQL クライアントを使ってデータベースに接続できるかどうかを確認します。

### MS SQL データベースの場合

```
% osql -U <ユーザ名> -P <パスワード> -S <サーバ ID >
```

```
例 : % osql -U sa -P manager -S DBSERVER¥LRTCDB
```

MS SQL Server が統合セキュリティを使用するように設定されている場合は、MS SQL データベース・サーバにオペレーティング・システム・アカウント IUSR\_METRO (パスワード: MIOrchid#1) が存在し、データベースへのアクセスを許可されていることを確認してください。IUSR\_METRO は、Performance Center の Web サーバと DCOM サービスが使用する標準設定のアカウントです。

### Oracle データベースの場合

```
% sqlplus <ユーザ名> / <パスワード> @ <接続文字列>
```

```
例 : % sqlplus system/manager@LRTCORA
```

このコマンドが失敗した場合は、

**%ORACLE\_HOME%¥network¥admin¥tnsnames.ora** ファイル内の TNS エントリを確認してください。TNS エントリの例を次に示します。

```
LRTCORA =
```

```
(DESCRIPTION =
```

```
(ADDRESS_LIST =
```

```
(ADDRESS = (PROTOCOL = TCP)(HOST = TCDBSERVER)(PORT 1521))
```

```
)
```

```
(CONNECT_DATA =
```

```
(SERVICE_NAME =LRTCORA)
```

```
)
```

```
)
```

### 3 データベースへの ADODB 接続を確認します。

データベースへの ADODB 接続を確認するには、Mercury サポート・サイトから、**TcIN\_AdoDBTester.exe** ユーティリティをダウンロードします。サポート・サイトにログオンして、[**Knowledge Base**] を選択し、[**LoadRunner TestCenter**] を選択して ID39475 を探します。

- ▶ 接続文字列の中のユーザ名、パスワード、およびサーバのフィールドを更新します。
  - MS-SQL Server の場合は、**Provider=SQLOLEDB.1;...** 接続文字列を使用します。
  - Oracle データベース の場合は、**Provider=MSAORA.1;...** 接続文字列を使用します。
- ▶ 有効な SQL ステートメントを設定します（現在の DB テーブルに基づいて）。
- ▶ 実行して応答を確認します。エラーが発生した場合は、エラー・メッセージが表示されます。そのメッセージに基づいて、問題の解決を試みてください。
- 4 Oracle データベースの場合は、Oracle クライアントが正しくインストールされていることを確認します。
  - ▶ [HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥Software¥Oracle] の下にある ORACLE\_HOME レジストリ・エントリが正しいかどうか確認します。ORACLE\_HOME は、Oracle クライアントのインストール先を指していなければなりません。
  - ▶ < Performance Center のホーム・ディレクトリ > /DB ディレクトリから **SQLPLUS.EXE** を削除します。
- 5 データベース・スキーマの作成を検証します。

Administration Site マシンの %temp% ディレクトリの下にある **db\_results.txt** ファイルを確認する必要があります。このファイルは、システム設定が完了した後にのみ使用できます。

また、**MI\_LRDB** データベース自体にログインすれば、このデータベースが存在することを確認できます。

---

**注：**システム設定後に User Site にログインできれば、データベース・スキーマは正しく作成されたと言えます。

---



## データベースの作成の失敗

データベースの作成が失敗した場合は、Administration Site マシンの **DbSetup** フォルダの下にある SQL ファイル群を実行してください。

**MS-SQL の場合 TestCenter.sql** を実行してデータベースを作成し、**InitDefinitions.sql** を実行してテーブルを初期化します。

**Oracle の場合 TC\_oracle.sql** を実行してデータベースを作成し、**InitDataOracle.sql** を実行してテーブルを初期化します。